

CHARITO

P R O F I L E

チャリットがジャズを歌い出してかれこれ20年になる。はじめはサラ・ヴォーン、エラ・フィッツジェラルド、ダイナ・ワシントン、カーメン・マクレエといった偉大なヴォーカリストを熱心に聴いたが、その中でチャリットの心を強くとらえたのは一番温かな感じがしたサラだった。飾り気がなくて自然に歌っている、それでいて格好いい、そういうサラ・ヴォーンにチャリットは大きな影響を受けた。

「ある時、最初のCDをリリースする前のこと、六本木の『ボディ&ソウル』で山本剛さんの伴奏で歌っている時に、たまたま来日していたサラ・ヴォーンがひょっこり遊びに来て、客席で私の歌を聴いていたんですね。はじめは私は気がつかなかったの。そしたら誰かが、『サラが来ている』というのでびっくりしたんです。それで、とても光栄なことですから『いま客席に偉大なサラ・ヴォーンが来ています』って紹介したら、何とサラが立上がって、そのままステージに上ってきちゃったんです。私はもう心臓がどきどきしちゃって、どうしていいかわからなかったんですけど、サラが、『一曲一緒に歌いましょう』といって<オン・ア・クリアー・デイ>と一緒に歌ってくれたんです。私はもう喉がからからに乾いちゃって声も出ない状態だったけど、この時はものすごく感激しました。すごく幸せな経験でした。」

またナンシー・ウィルソンもチャリットの歌を聴いて、「The first time I heard Charito, I physically and emotionally embraced her and thought myself BEAUTIFUL, that came from the heart and the soul. She has a warm way of presenting a song and she represents what a singer really is, a song stylist.」って言って、すごく誉めて下さったんです。偉大な先輩から音楽に対する大きな愛を貰って、私はいつまでも勉強しながらひととこに留まらないで前進し続けようという気持ちにさせられたんです。」とチャリットは語る。

チャリットの印象的で力強い声は、その歌唱力でスタンダードジャズからアップビートでファンクな曲まで音楽のジャンルも広がり、きびきびしたその歌い方は、幅広い層の人々の心をごちりつかんでいる。

ステージでの彼女の感情のこもった歌唱とその豊かな表現力が、聴衆に深い共鳴を与えているのである。評論家、音楽家、聴衆から、力強い才能あるアーティストとして喝采を浴び、ジャズ界ではすでに確固たる地位を築いており、もちろん海外でもその名は知られている。現在、12枚のアルバムをリリースしているが、アメリカとカナダでレコーディングされたものが多い。

1990年に最初のアルバム『This Girl』が『ニッポン・クラウン '91』で初めて世に出た後、チャリットは歌手として脚光を浴び始めた。外国人歌手でニッポン・クラウンから出たアーティストは、彼女が初めてであった。これをきっかけに、様々な活動の場が広がり、続いてリリースしたアルバムはどれも順調に売り上げを伸ばして来た。

ハリー・ウィトカー(kb)、アレックス・ブレイク(b)、ウォレス・ルーニー(tp)のような有名な一流ミュージシャン達との『Swing My Way』の制作、モーリス・ホワイト(アース・ウインド&ファイア)とのデュエットを発表。1992年には『Shades of Love』での日野皓正との共演、1993年には『Love of My Life』でのコーネル・デュプリー(g)、パディー・ウイリアムス(ds)、デイビッド・スピノザ(g)との共演といった経験は、彼女の仕事に格とともに広がりとし深みを与え、今日の音楽界での地位を築き上げる原動力となった。

アーティストとして自分を語るとき、出身の「民族」を匿すことはない。アルバムの中には、フィリピン出身であるという自分のルーツを胸に秘め、有名なフィリピンのラブソングを二つ入れている。音楽を通じて、母国のより良いイメージを印象づけ、常に母国に対する文化的関心を高めようと努めている。彼女のその努力に対し、フィリピンの日本における旅行部門の宣伝活動を支援してきたことが認められ、「親善大使」の称号も与えられている。

1995年に発表した『Forever More』では、チャリットはもう一度、その才能の新たな面を見せてくれた。このアルバムは、ニューヨークの若く才能のあるミュージシャン達と一緒にプロデュースしたものである。旋律の豊かな声とカリスマ性、否定しようのない存在感で音楽を作りあげている。その比類ない歌声で唱うリズム・アンド・ブルースやソウルの官能的なリズムも楽しめる。強く、美しく、異次元を旅しているかのようである。

この才能あふれるアーティストは、1995年のアメリカのシカゴ、ニューヨーク、カナダのオタワ、トロント、モントリオールを回るツアーで、日野皓正と共演し、『Asian Jazz All Stars』のボーカリストとして、北アメリカの音楽ファンをも魅了した。

1996年には韓国、上海、香港、シンガポール、マレーシア、タイ、台湾を回り、最後に横浜で開かれた『Mt. Fuji Jazz Festival』でそのツアー公演の完成を見た。また7月の『Montreal Jazz Festival』では、チャリットは7万人の聴衆の前に歌った。彼女のアルバム、『Forever More』は、カナダとアメリカでリリースされ、世界ランクの歌手であることを示した。

1997年のカナダ・ツアーには『Lost Chart Ensemble』のメンバーとして参加し、6月の『Montreal Jazz Festival』には2回目の出演を果たした。この頃新しいアルバムも2枚、レコーディングした。そのうちの1枚は、スタンダード・ナンバーを集めた『A Time For Love』で、アメリカ、カナダでは1998年6月、日本では1998年7月にリリースされた。

1998年11月には、『Beijing Jazz Festival』に出演したが、『Lost Chart Ensemble』のスターボーカリストとして、中国の主要都市（北京、上海、成都、大連）を回るツアーを行った。その後、このグループは、プロモーション・ツアーの一部として、東京で、多くの有名なクラブでショーを行っていている。

次に発表されたアルバム『To The Beat Of Your Heart』は、すべてジュディス・ヘンダーソンとアンドレ・ゲイ作曲のオリジナル曲で、1999年3月25日にクラウンレコードからリリースされた。

1999年9月、マレーシア、クアラルンプールのデワン・フィルハーモニック・ペトロナスで、『ASIANA』と共演した。ASIANAは、ジェレミー・モンテイロ(p)率いる、アジア人のミュージシャンが集まりジャズを演奏するグループである。アジアの色々なエスニックな楽器の音を組み合わせ、様々な要素を混ぜ合わせて、即興のジャズハーモニーを演奏するのである。

クラシック音楽の弦楽四重奏グループ『Tokyo Y's Club String Quartet Ensemble』でもゲストとして歌い、レコーディングを行なったが、これは『Tokyo Y's』という名のアルバムとして、11月11日にクラウンレコードからリリースされた。このユニークで美しいコラボレーションは意味深いコンサートの流れを作った。

2000年は日本以外での活動が際立った。日野皓正により結成された著名なジャズ・ミュージシャン達のグループ、『World Jazz All Stars』のボーカリストとして、韓国ソウルに新しくオープンしたばかりのLGアートセンターの幕開け公演を行い、ワークショップにも参加した。また7月には、シルベイン・ガニョン及びカナダの一流ジャズミュージシャン達と共に『Jazz From Around The World』という国際的なプロジェクトを立ち上げたが、これは日本国内の様々な都市で続けてコンサートを行なうもので、東京のカナダ大使館劇場でも特別演奏会を催している。

2001年 ジャズヴォーカリストとしての音楽活動以外に「ビコーズ・ウィ・ケア基金」というボランティア団体を立上げる。日本とフィリピンの身体的又精神的な障害を持つ子供達を対象にチャリティ活動を行なう。

2002年 NYにてマルグリュー・ミラー(p)、ロニー・ブラキシコ(b)、ジェレミー・ペルト(tp)、ルイス・ナッシュ(ds)らと共に大石学(p)をミュージックディレクターに迎え、アルバム制作を行なう。

2003年ニューヨークにてマルグリュー・ミラー(p)、ロニー・ブラキシコ(b)、ジェレミー・ペルト(tp)、ルイス・ナッシュ(ds)らと共に大石学(p)をミュージックディレクターに迎え、8枚目のアルバム『They Say It's Wonderful』を録音。また『くっちゃんジャズフェスティバル2003』を始めとし、全国の多くのジャズフェスティバルにも出演。また併せて上海、ホノルル等海外のライブハウスでも活躍。同時に『NHKセッション505』にも出演、高い評価を得る。またこの年はビッグバンドとの共演を復活させ名古屋ブルーノート等各地でライブを行なった。

2004年1月にはブラジル・サンパウロで、ついに念願のイヴァン・リンスを迎え、ブラジルの一流ミュージシャン達と『Non-Stop to Brazil -Charito meets Ivan Lins-』を録音。7月に9枚目のアルバムとして発表したがスイングジャーナル誌選定ゴールドディスクに選ばれた。このアルバムは本来のジャズ、ボサノバ、MPB ファン以外の新しいファン層からも厚く支持され、セールス的にも成功を収めている。

2005年1月『Non-Stop to Brazil -Charito meets Ivan Lins-』がスイングジャーナル誌主催第38回(2004年度)ジャズ・ディスク大賞ボーカル賞(国内部門)を受賞した。

8月には、チャリート&ラテンジャズファンク・バンドは、日本国内や世界中から多くの有名なアーティストたちが夢の共演のために世代や国の違いを越えて一つのステージに集結した、東京ビッグサイトでの『東京 JAZZ 2005』においてハイライトの1つとして出演。マーカス・ミラーやイヴァン・リンスらとともに彼女もまた、ハービー・ハンコックのリードによるスーパー・ユニット・セッションにも参加した。

マンハッタン・ジャズ・オーケストラ(MJO)とのニューヨーク・レコーディングという大興奮をもたらした2006年。デビッド・マッシュューズのアレンジと指揮によるこのアルバムは、ヴォーカリストとMJOのコラボレーションとして初めての作品となった。

6月に発売となった『ニカズ・ドリーム』(2006/CTmusic)はチャリートとMJOによる初めてのライブ共演をも実現。また、MJOの『スイング・スイング・スイング! ジャパン・ツアー2006』のハイライトとなった東京のサントリーホールをはじめ、いくつかの公演にゲストとして出演。このアルバムは高い評価を受け、スイングジャーナル7月号選定のゴールドディスクを受賞。

この年、彼女は圧倒的な評価のもとアウクスブルク(ドイツ)のアウグスタナホール・ジャズ・シリーズで初めてのコンサートを開いた。またここでも彼女は、ダウンタウン・ミュージック・インスティテュートの上級者向けヴォーカル・ワークショップで講師も勤めた。ドイツはチャリートを温かく迎え、今後のフェスティバルやイベントへの再度の招待も計画されている。

2007年1月、『Nica's Dream』がスイングジャーナル誌主催 第40回(2006年度)ジャズ・ディスク大賞ボーカル賞(国内部門)を受賞。

2月にマニラで行なわれた『The Philippine International Jazz & Arts Festival 2007』に出演。8月にはフランスでのジャズフェスティバル等に出演、その後ロシュフォールにて12枚目のアルバムの制作に取りかかる。9月には11枚目のアルバム『NOW AND ALWAYS』を新ユニット「Music Virus」と発表。10月にはドイツでのコンサートに出演、その後パリにてフランスの映画音楽界の巨匠ミシェル・ルグランとレコーディングを行なう。12月には『NHKセッション2007』に「Music Virus」と出演。

2008年3月、マニラで『The Philippine International Jazz & Arts Festival 2008』に出演。4月にはロシア・シベリア地方での公演ツアーを敢行。『バイカル・ウェイブ国際ジャズ祭』等のジャズフェスティバル、ジャズクラブに出演。5月及び7月には、アメリカ・アトランタでの『Atlanta Jazz Festival 2008』などのジャズフェスティバル、ジャズクラブ等に出演。8月12枚目のアルバム『Watch What Happens ~ Charito meets Michel Legrand』というミシェル・ルグランとの共演アルバムを発表。スイングジャーナル誌選定ゴールドディスクに選ばれる。10月~11月 ドイツ、スイスでの12公演のコンサート、ライブに出演後、ニューヨークにて4公演のライブにも出演。

2009年2月、マニラで『The Philippine International Jazz & Arts Festival 2009』に出演。4月にはタヒチで行なわれた『Polynesia Music Festival』にはアルバムのレコーディングメンバーであるフランスのアラン・ブルネ(tp)、アラン・マイヤラ(p)らと出演。6月には、2月に引続きマニラでチャリティア・コンサートに出演、その後サンフランシスコの"Savanna Jazz Club"、"7 Mile House"に出演。7月には青森県八戸市での『第20回南郷サマージャズフェスティバル』にドミニク・ファリナッチ(tp)をゲストに迎え出演。

またバレンタインデーにちなみ、全国の『スターボックス』で『Watch What Happens』のCDをバレンタイン期間限定販売。スターボックス 六本木ミッドタウン店、銀座マロニエ通り店でライブを開催。9月、全米のメディア、FM、インターネットで『Watch What Happens』発売記念キャンペーン開始。10月15日全米にて発売。10月は2週間オーストラリアで『Jazz A Vienne Sydney Jazz Festival』などに出演。その後10月下旬よりアメリカ西海岸、ロサンゼルス、オークランド等のジャズクラブに出演。